

^ 13
3689
26



大内家の柱臣

山口玄止茶田丸

七変七十六

守の愛妾
藻の花

醫師
古水菴

春の茶王
野の茶王



春

春の風
吹く
花の
散る
恋の
心
あはれ
な
ま

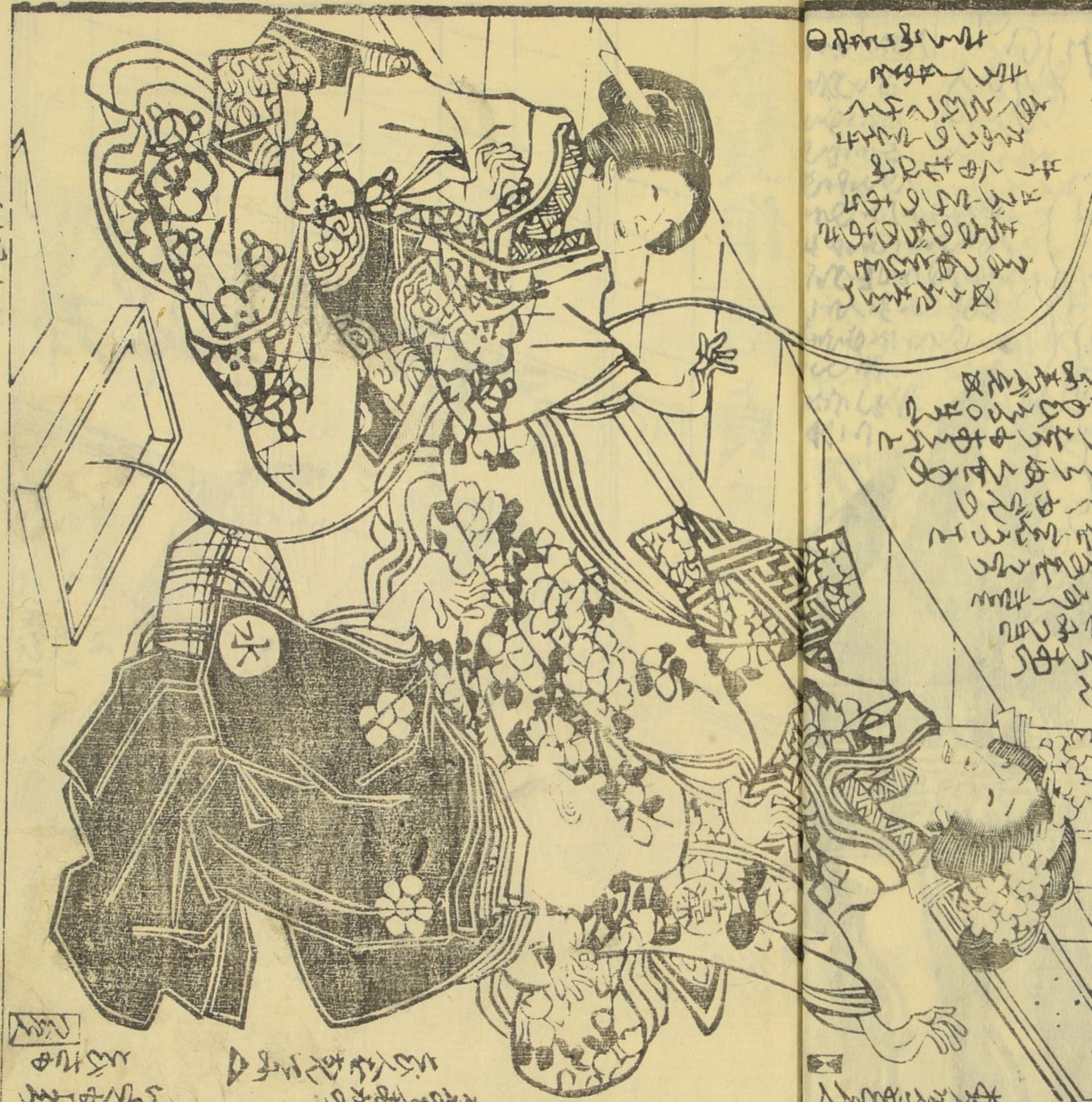
春の
風
吹く
花の
散る
恋の
心
あはれ
な
ま

春の
風
吹く
花の
散る
恋の
心
あはれ
な
ま

春

春の
風
吹く
花の
散る
恋の
心
あはれ
な
ま

春



Handwritten text in the bottom left corner of the left page, including a small square seal.

Handwritten text in the top left corner of the right page, including a small square seal.

Handwritten text in the middle of the right page, including a small square seal.

Handwritten text in the top right corner of the right page, including a small square seal.

Handwritten text in the middle right section of the right page, enclosed in a large, irregular frame.

Handwritten text in the bottom right section of the right page, including a small square seal.

明 治 三 庚 午 歲 初 春 開 版 目 錄

全 地 本 雙 紙 問 屋 金 松 堂

唐 詩 佐 加 那

初 編 追 出 校 山 亭 有 人 作

金 華 七 變 化
廿八編 追出校 國貞作
右 著 殊 多 介 御 繪 判 紙 之 風
作者 皇 三 世 一 代 の 新 案 新 工 風
彫 摺 小 子 念 と 入 右 今 の 風 中 と
微 な 其 六 著 官 雜 々 言 覽 を 好 む

道 外 江 戶 名 所
大 錦 繪 五 十 番 續 廣 景 画

假 枕 巽 八 景
二 編 魯 文 作 讀 切 國 周 画

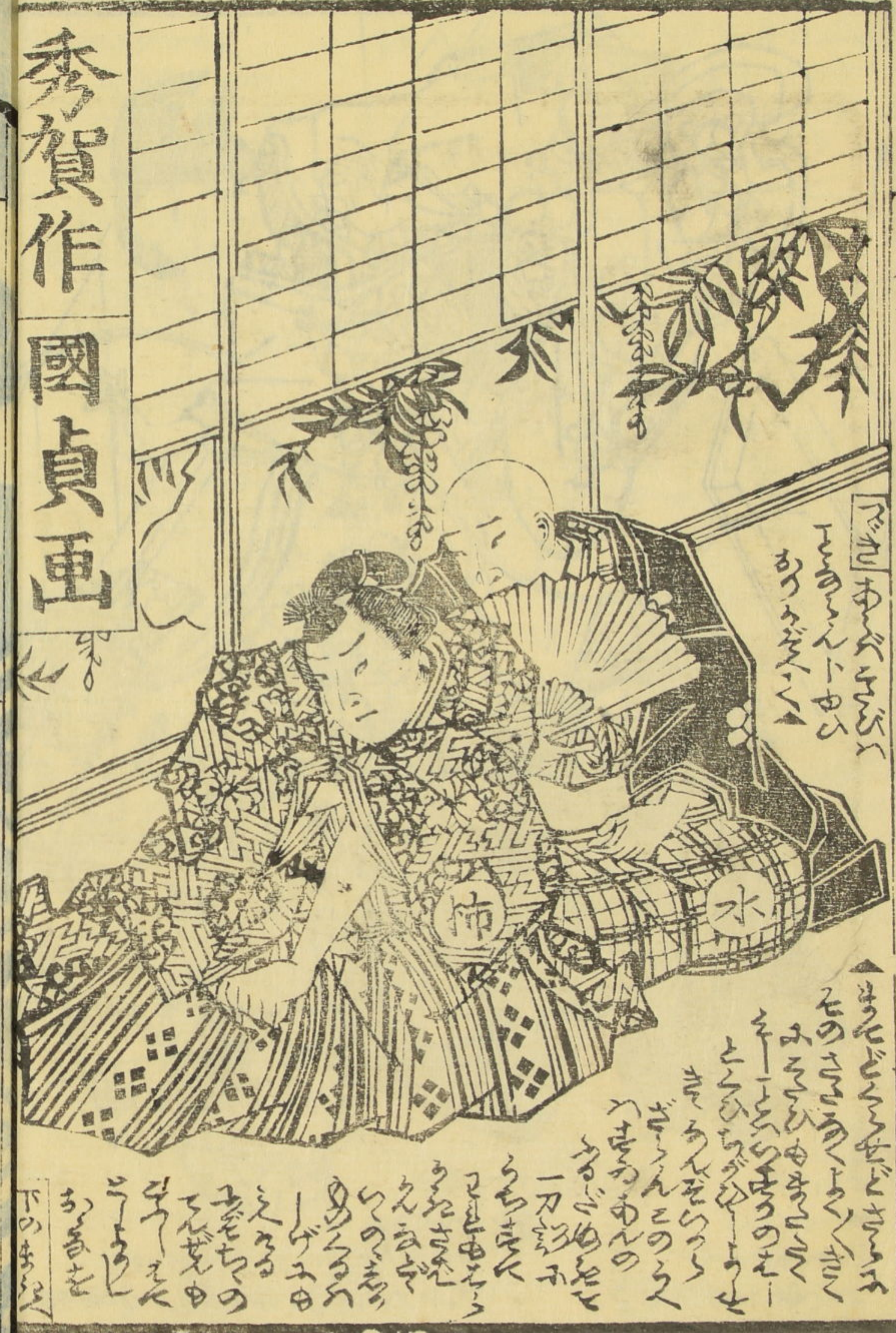
濡 衣 女 鳴 神
十 編 秀 賀 作 讀 切 國 貞 画

梅 春 霞 引 始
三 編 魯 文 作 讀 切 國 周 画

周 防 漆 櫻 模 樣
四 編 有 人 作 五 編 國 貞 画

横 山 町 三 丁 目 辻 岡 屋 文 助 梓

秀 賀 作 國 貞 画



此 畫 作 世 六

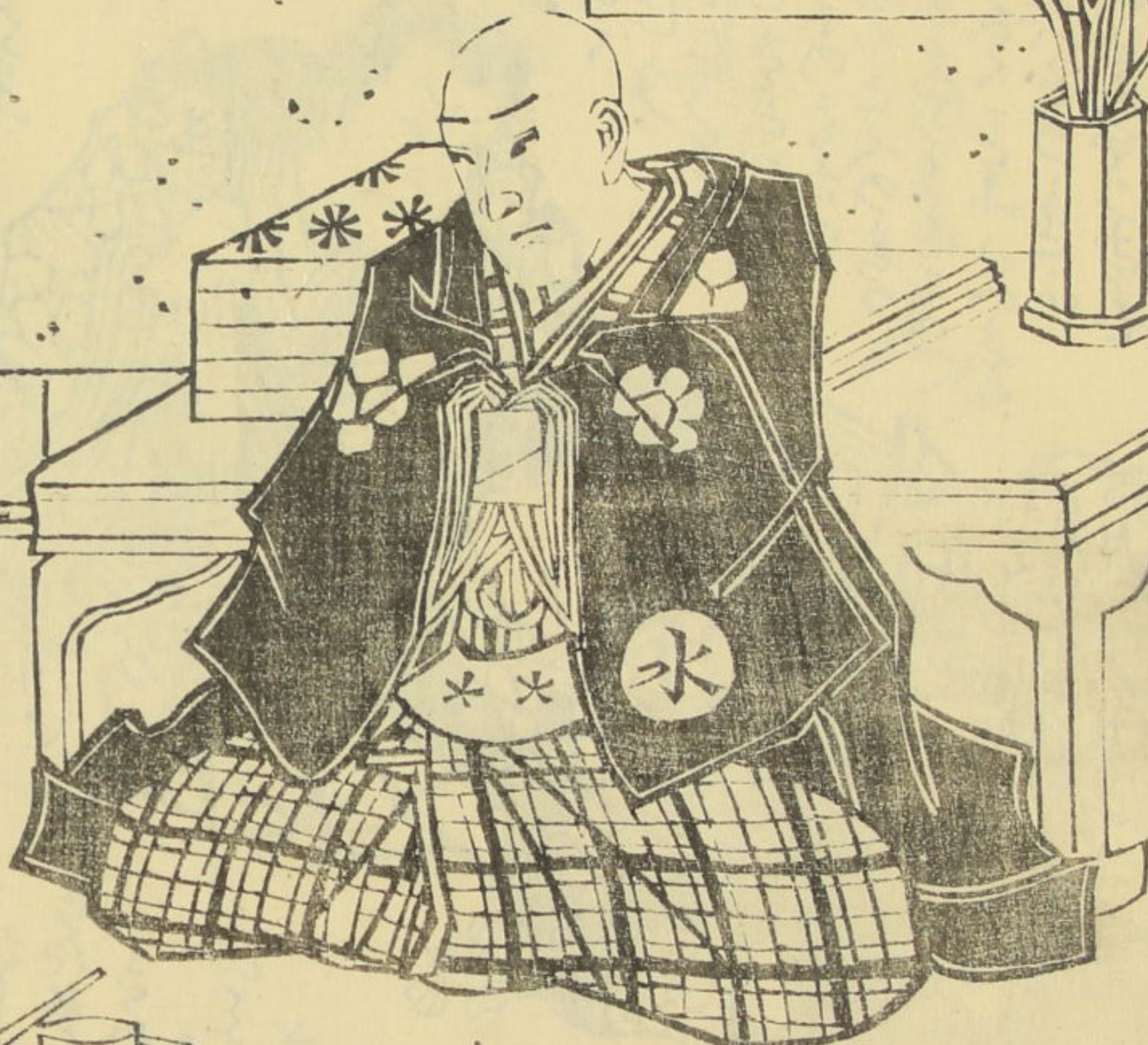
此 畫 作 世 六

此 畫 作 世 六

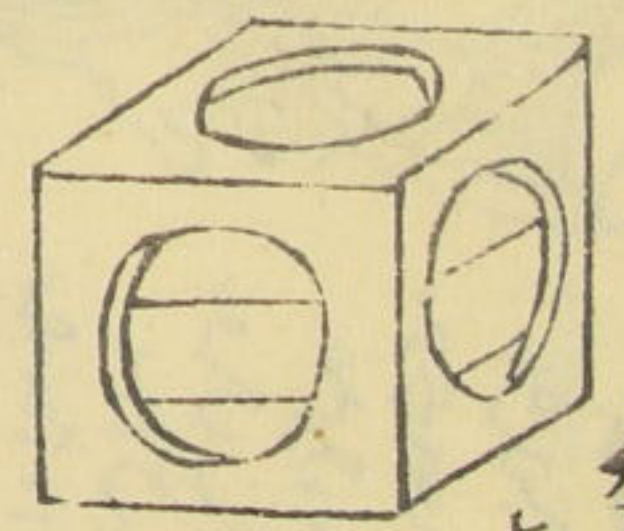
下 の 書 記



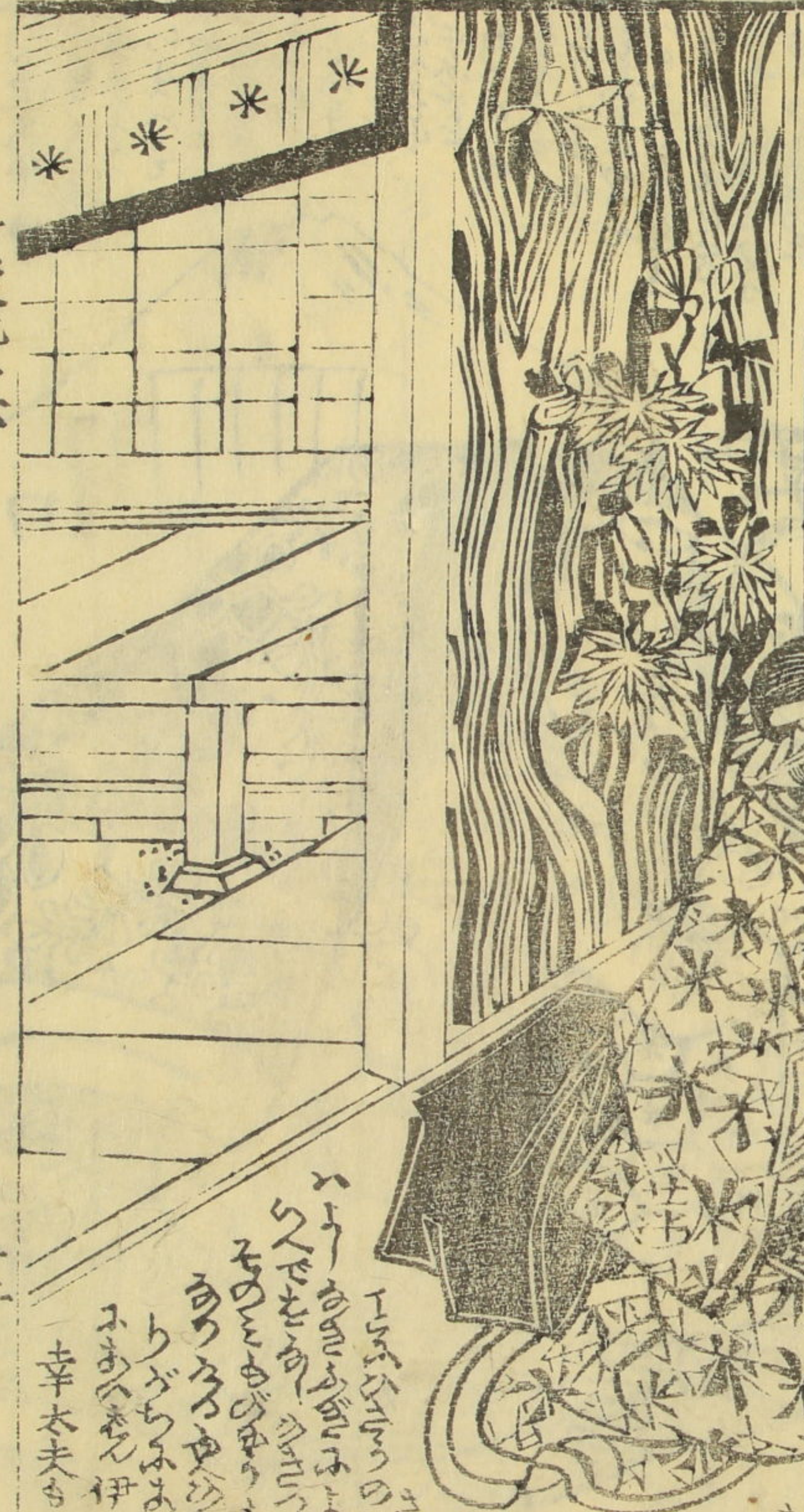
江戸の
 名産
 文楽
 の
 衣装
 考へ



江戸の
 名産
 文楽
 の
 衣装
 考へ



江戸の
 名産
 文楽
 の
 衣装
 考へ

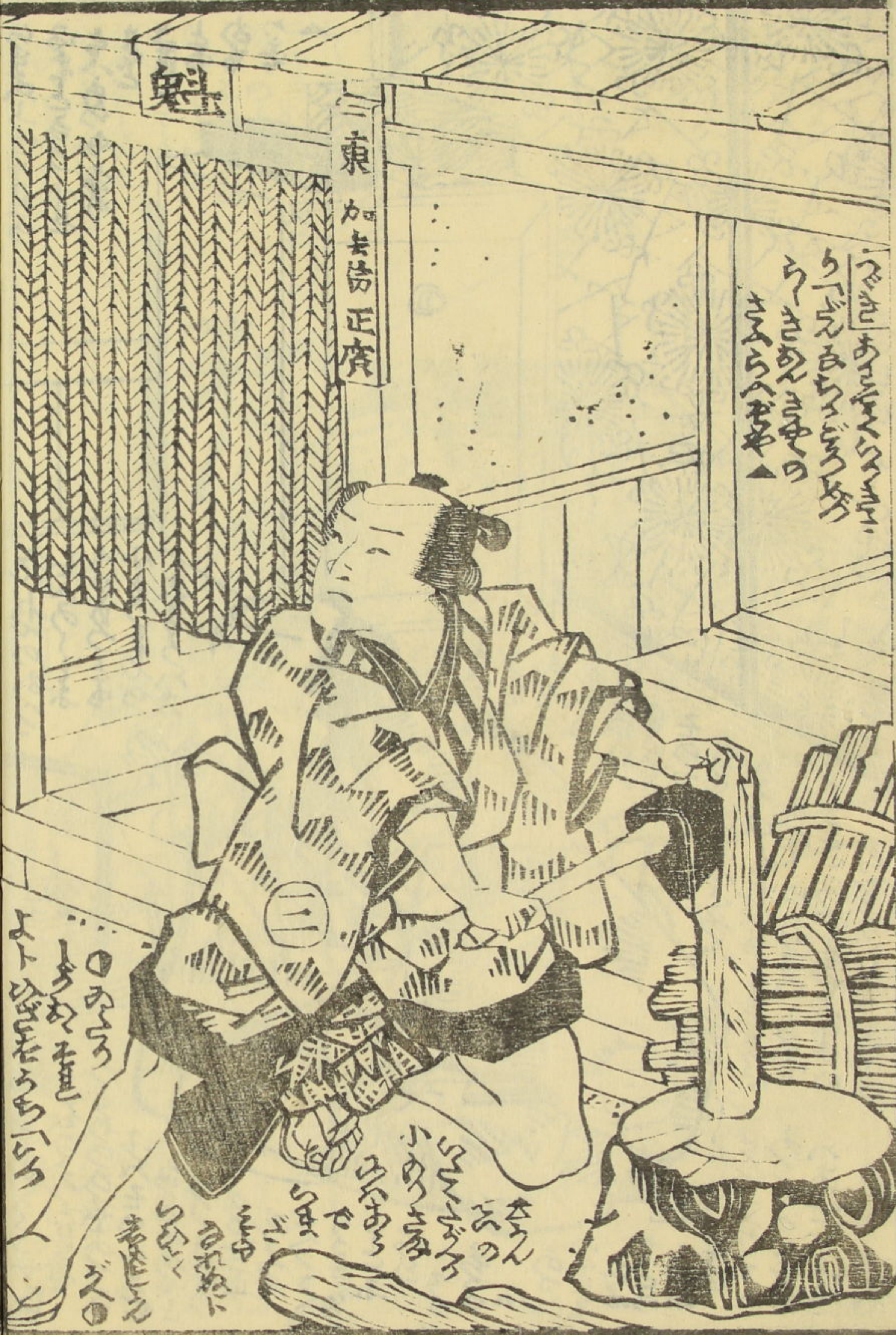


江戸の
 名産
 文楽
 の
 衣装
 考へ

おんなのこころ
うらやまの
あはれ

東
かきつ正廣

料



おんなのこころ
うらやまの
あはれ
おんなのこころ
うらやまの
あはれ
おんなのこころ
うらやまの
あはれ



おんなのこころ
うらやまの
あはれ

おんなのこころ
うらやまの
あはれ
おんなのこころ
うらやまの
あはれ
おんなのこころ
うらやまの
あはれ
おんなのこころ
うらやまの
あはれ



この茶室は、千利休の
 所作と云ふべきなり
 其の室は、わびさびの
 趣を、よく表はして居る

この茶室は、千利休の
 所作と云ふべきなり
 其の室は、わびさびの
 趣を、よく表はして居る

この茶室は、千利休の
 所作と云ふべきなり
 其の室は、わびさびの
 趣を、よく表はして居る

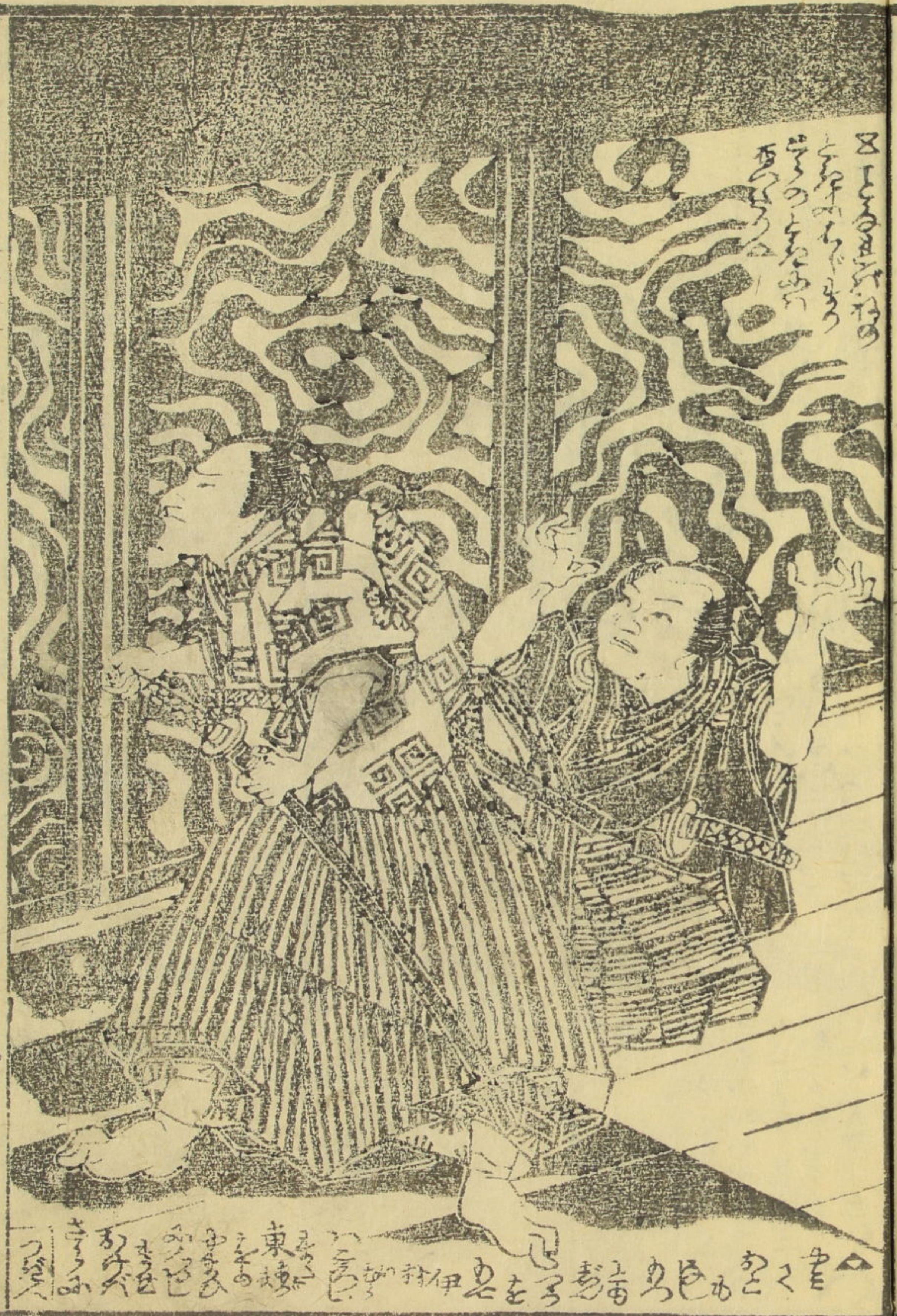
この茶室は、千利休の
 所作と云ふべきなり
 其の室は、わびさびの
 趣を、よく表はして居る



この茶室は、千利休の
 所作と云ふべきなり
 其の室は、わびさびの
 趣を、よく表はして居る

この茶室は、千利休の
 所作と云ふべきなり
 其の室は、わびさびの
 趣を、よく表はして居る

この茶室は、千利休の
 所作と云ふべきなり
 其の室は、わびさびの
 趣を、よく表はして居る



幸三
おのれ
のり
のり
のり

幸三
おのれ
のり
のり
のり

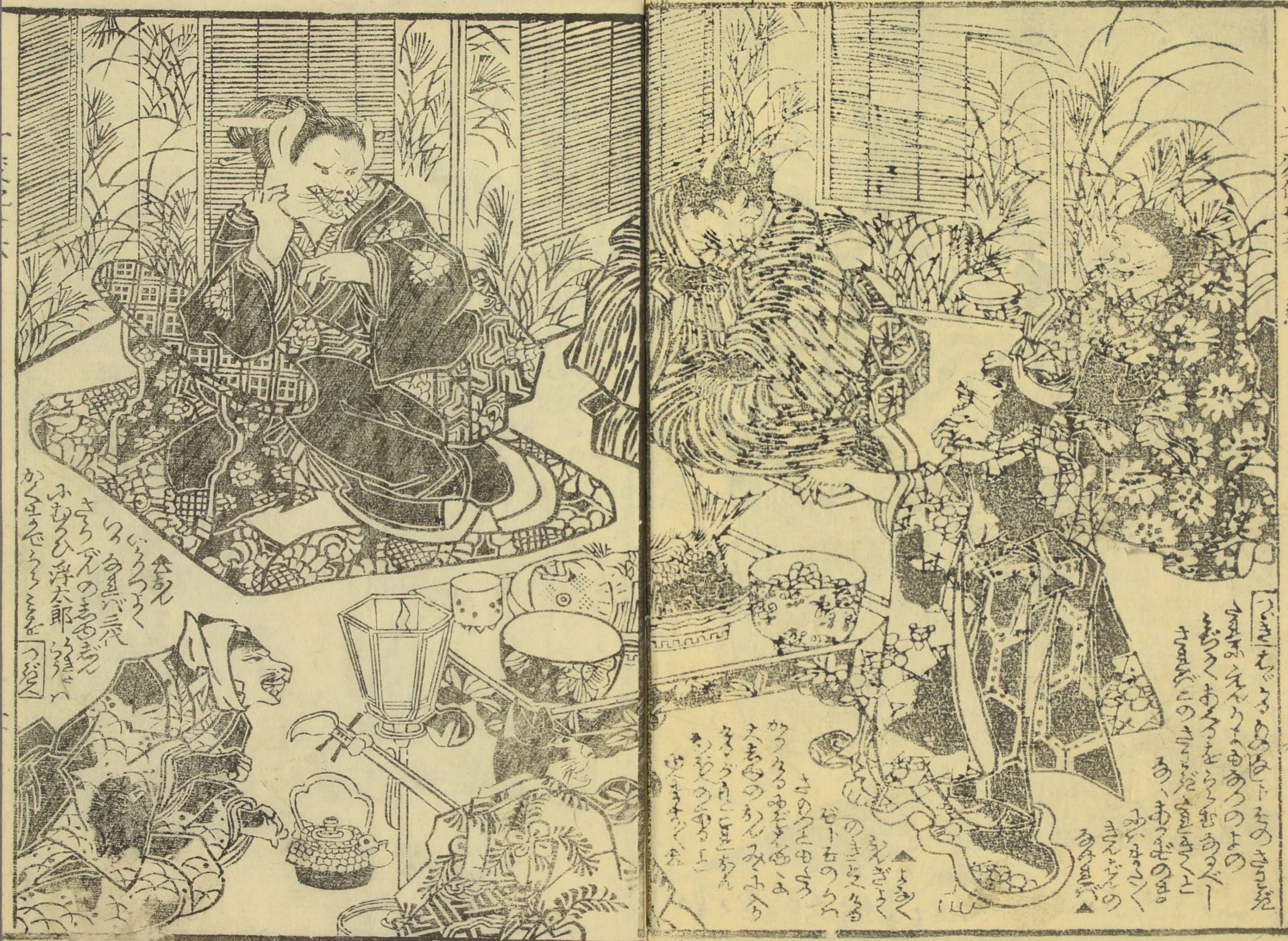
幸三
おのれ
のり
のり
のり



幸三
おのれ
のり
のり
のり

幸三
おのれ
のり
のり
のり

幸三
おのれ
のり
のり
のり



大あん
 りんごのたね
 さくらんぼのたね
 ふたごの浮太郎
 かんざし

いまもこのまじり
 まくらんぼのたね
 さくらんぼのたね
 ふたごのたね
 かんざし

大あん
 りんごのたね
 さくらんぼのたね
 ふたごのたね
 かんざし

藤村秀賀編 歌川國貞画

大志西ふまうまが
おくのこをこを
ゆつ且かの正
ぞちんぞあむ
あむらり
あむらり

○こまのりま
しつあむらり

○あむらり
大志西ふまうまが
おくのこをこを
ゆつ且かの正
ぞちんぞあむ
あむらり

○こまのりま
しつあむらり

○あむらり
大志西ふまうまが
おくのこをこを
ゆつ且かの正
ぞちんぞあむ
あむらり



△ひあ
と
ま
あ
と
と

浅草刈十社縁起

初編 種彦作
追板 國貞画

水鏡山鳥奇談

四編 秀賀作
五編 國周画

蓬萊嶋臺 延壽盃

傀儡師

三編 魯文作
四編 國綱画

花の御所九重日記

初編 秀賀作
追板 國貞画

全 地本雙紙問屋 金松堂

横山町三丁目

辻岡屋文助梓

水製丁子油

日本橋通十軒店
繪双紙

武藏屋勝之助

柳丁子の油は和漢の油より
常々として常々油は和漢の油
中核の肝委の系之系は和漢の油
細あり常々和漢の油は和漢の油

